

生涯学習のあり方について

1. 中宇治地域市民協働でつくるまちづくりの拠点ワークショップについて

(1) 9月2日 事前勉強会

別紙資料参照 <https://www.youtube.com/watch?v=EziKUz6IWf4>

講演：公民連携の仕組みとデザイン（講師：菊地マリエさん）

報告：これまでのまちづくり活動

鼎談：市民協働の可能性について

見学：中宇治まちあるき

(2) 9月24日 ワークショップ第1回 「活動」について考える

別紙資料参照

レクチャー：「面白そう」から始める（プレゼンター：藤本遼さん）

ワークショップ：「誰が」「いつ」「何を」できたらいいかを考える

2. 宇治市の生涯学習あり方について

・第8期答申（H31.2）で示した生涯学習のビジョン（一部抜粋）

次世代を担う若者から、知識・経験を継承する立場の高齢者まで、あらゆる年代の市民を、市の生涯学習推進に巻き込んでいく仕組みを構築する。そして、その中での活動が、教育の範疇にとどまらず、地域活動や福祉、防災等他の分野と連携することで、各々が専門性を活かしながら、新しい取組が生まれるのではないか。つまり、生涯学習に関する施設・仕組み・組織・事業等を総合化していくことで、世代を超えた地域交流の促進や、市民によるまちの活性化につながるような生涯学習が推進できるものとなる。

・ビジョンのポイント

➢ あらゆる年代の市民を巻き込む

事業 実施曜日や時間の多様化、参加手段の確保、アウトリーチ

例）中宇治エリアまちにわワークショップ 土日の日中

男女共同参画週間 UJI のつどい 会場参加とオンライン参加

現役世代向けに平日夜間・休日に大学教授によるビジネス向け講座

幅広い世代が集って交流⇒メッセージ展、写真展

公民館職員が公民館以外の場所で事業を行う⇒パーラー公民館

➤ 教育の範疇にとどまらない/総合化

事業 宇治市の市長部局や行政以外の団体が開催している講座への参加、コミセンや福祉センターでのサークル活動も生涯学習。

市民に学んでほしい、今の時代に必要だ、と意図して働きかける事業が社会教育。

例) 健康づくり推進課の体操・運動教室

電子機器開発会社が提供するプログラミング教室

コミセンで活動する書道サークルがコミセンまつりで成果発表

市民協働でつくる まちづくりの拠点 ワークショップ



vol.0 「事前勉強会」

9月2日 茶づな

宇治市は、中宇治地域における新たな市民の拠点づくりを市民協働によって進めていきます。9月下旬から全3回行われるワークショップに先立って、9月2日に事前勉強会が行われました。公民連携による公共施設の再生やパブリックスペースの創出に多様な経験をもつ菊地マリエさんによるレクチャーをはじめとして、宇治市市民協働推進課・今儀による中宇治地域のこれまでの活動の紹介、そして菊地さん・宇治市出身・在住の建築家寺川徹さん、今儀による鼎談が行われ、市民協働による事業の進め方について参加者の理解を深める機会となりました。最後に、拠点にふさわしい場所をイメージしながらまちあるきを行いました。

公民連携の仕組みとデザイン

最初に、菊地さんより「公民連携の仕組みとデザイン—公有地を活用した交流空間の創出事例と手法—」というテーマでレクチャーをしていただきました。前半では、公共施設の更新をめぐって、国内の多くの自治体が抱える課題について、わかりやすい解説がなされ、その解決のための手法として、公民連携の可能性について述べていただきました。今回の拠点づくりは、公共施設をつくる4つのステップ（方針策定、設計、施工、運営）のうち、方針策定の段階から市民協働によって進めようというもので、設計以降に民間が主体となる

既存の枠組みよりもさらに発展した試みであるといえます。そこで、後半では、方針策定段階から市民協働によって行われた事例として、岩手県紫波町のオガールプロジェクトを紹介いただきました。町民による提案から始動したこのプロジェクトが地域に定着するまでのプロセスや、収益性を確保するための具体的な手法まで説明いただき、今後の拠点づくりの参考となりました。

これまでのまちづくり活動



続いて、市民協働推進課の今儀より、中宇治地域のこれまでのまちづくり活動について紹介させていただきました。住民の方々や京都文教大学の取り組みによって交流の起点となる場所ができ、波及的効果が生まれてきています。また、中宇治地域は宇治市の「子育てにやさしいまち実現プロジェクト」のモデルエリアとなっていますが、子育て世代に優しいまちはほかの世代にも優しいまちであってほしいとして、それを実現するための市民協働推進課の取り組みとして「まちのリビング創出促進事業」の紹介を行いました。つながりやきっかけづくりの場と機会を、市民協働によって生み出していきたいという思いを伝えました。



2023年9月2日
13時30分～16時30分
会場：お茶と宇治のまち歴史公園 茶づな
参加者：49名
【レクチャー】
菊地マリエ(公共R不動産)
今儀妙子(宇治市市民協働推進課)
【鼎談】
菊地マリエ・寺川徹・今儀妙子



鼎談 市民協働の可能性について

勉強会の後半では、菊地さん、寺川さん、今儀の3名で、中宇治地域の市民協働の可能性について鼎談を行いました。寺川さんは、建築家としての仕事の傍ら地元の小学校の活動にもかかわる中で、他人任せではなく自分たちの力で子供たちのためにできることを考えいかなければならぬという思いに駆られたといいます。子育て中の菊地さんは、「子育てによってまちづくりへの当事者意識は増したのに、同時に自分の時間はとても少なくなってしまったというジレンマを抱えている。この勉強会のような場所にも、子育て世代が参加できる仕組みがあればいいと思う。」といったお話をされました。一方で、中宇治地域の観光地としての側面も見逃せません。菊地さんは今回のレクチャーに当たって、観光地というイメージの強い宇治で、観光と暮らしと一緒に考えていくことの難しさを感じたといいます。それに対し今儀は「コロナ禍が、人の暮らしを考える機会になった。今は観光業も戻りつつあり、バランスが取れている状態だと思う。」と話しました。寺川さんは、「観光業に就いている地元の人もたくさんいるので、観光客が戻ってきてよかったと思う。しかし、これ以上増えるとオーバーツーリズムになってしまう。宇治はまだ大丈夫だが、京都市の東山地域では、渋滞により救急車の到着が遅れるなど、住民の生活が脅かされている。」として、今後も生業と観光のバランスの取れた地域であり続けたいと語られました。暮らしという部分に踏み込んで住宅の話題になり、今儀からは「空き家の数が多いのに、新たに住みたいと思う人たちに提供できる住宅のストックが極めて乏しいという現状。中宇治地域に住みたい

人はたくさんいる。新たな拠点を考えるうえでは、住まいなど地域の課題についても合わせて考えていかなければならないのでは?」という問題提起がありました。菊地さんは「住みたいと思う人がたくさんいるのが強み。ぜひ、地元の、想いがある主体によって住まいも運営されてほしい。」と応じられました。市民協働による拠点づくりの意味、中宇治地域のポテンシャル、実際につくっていく際に考えるべきポイントなど、示唆に富んだ鼎談となりました。

中宇治まちあるき

最後に、2つのグループに分かれてまちあるきを行いました。地元の方でもあまり通ることのない道もルートに組み込まれており、まちの新たなポイントに驚かれる参加者の方もいらっしゃいました。また、まちあるき中は参加者の方も思い思いに言葉を交わしており、「新しい場所づくりに積極的に参加したいと思う。



子育て世代が来られる場所にするなら、車での来やすさは重要な要素ではないか。」「ぐるっと遠回りしなければいけない場所は拠点にふさわしいのだろうか。」などの声も聞かれました。まちあるき中に気づいたポイントはシートに書き込んでいただき、主催者で回収しました。参加者の気づき、まちへの思いが今後のワークショップを、そして新たな拠点を形作っていくこととなります。



今後のワークショップ予定

09.24 13:30~16:30

#1 「活動」について考える

10.21 13:30~16:30

#2 「場所」について考える

11.18 13:30~16:30

#3 「しくみ」について考える

申し込みは
こちら→



市民協働でつくる まちづくりの拠点 ワークショップ

vol.1 「活動」について考える

9月24日

ゆめりあうじ

中宇治地域の新たな市民活動の拠点づくりを市民協働で進めるためのワークショップの第1回目を行いました。「活動について考える」がテーマの今回は、兵庫県尼崎市を中心にさまざまな地域プロジェクトに関わっておられる藤本遼さんによる話題提供から発想のヒントを得たのち、6班に分かれでグループワークを行いました。

「面白そう」から始める

藤本さんは、尼崎市出身・在住で、「株式会社ここにある」の代表取締役を務められています。今回の話題提供では、「面白そう」から始まり地域を巻き込むこととなった、さまざまなプロジェクトを紹介していただきました。偶然、仏教寺院の住職さんと仲良くなり、「お寺でカレーを食べたら面白いのでは?」と思いつき、「インド文化を学べたらいい」と発想を広げて始まった「カリー寺」。「いろんな人が来たら面白い」けど「まちの活動に障がい者の姿が見えない」と気づき、従来の行政主催の活動を大きく変えて始動させた「ミーツ・ザ・福祉」。いずれも、藤本さんの思いつきや気づきを契機に始まったものですが、想いを持って取り組んでいる間に、地域全体のプロジェクトになっていたといいます。



グループワークへ



今回は、世代ごとに6班に分かれ、中宇治地域で「誰が」「いつ」「何を」できたらいいかについて話し合いました。ひとりひとりが想像したものをグループ内で共有し、議論の中でより具体的な活動をイメージしながら、最終的には各班で2つずつ「あったらいい活動」を決めて全体に発表しました。グループワーク中には、体を乗り出し、熱心に意見を交わす姿が見られました。



2023年9月24日
13時30分～16時30分
会場：ゆめりあうじ
参加者：25名
ファシリテーター：6名
(レクチャー)
藤本遼(株式会社ここにある・代表取締役)

それぞれの「あつたらしい活動」

1班は高校生や大学生が中心で、「面白そう」に忠実なアイデアが多く出てきて、作成されたシートはイラストで溢れていました。「交流を通じた体験」がこの班のキーワードとなっていました。

同じく学生中心の2班は、参加者のアイデアが書かれた付箋の数が圧倒的に多く、他の班から見学に来るほど。アルバイトやボランティア、授業など学生ならではの経験をもとに、**身近な「誰が」**を想像して具体的な議論を進めていました。

働く世代中心の3班は、参加者同士で互いの意見を引き出し合いながらワークを進めていました。また、子育てだけでなく介護なども含めた**「ケア」**という話題が出ていたのが印象的でした。

4班も働く世代が中心で、子育てを中心とした多世代交流が話題に上がりました。子育て中のパパが地域との繋がりを持ちづらいという経験から、集まることができる場所があるだけではなく、**大人の得意なことを活かせること**が交流を促すのではという話になりました。

シルバー世代の5班は、自分が若かった頃の気

持ちを想像しながら、年齢や時間まで具体的に描いた活動を挙げていました。また、同年代でも、必ずしも求めるものが同じわけではないという気づきを得ていました。

6班もシルバー世代中心です。早い段階で模造紙が付箋で溢れ、そこから発展して「誰が、の部分はほんとにこの人たちだけでいいの?」「こういう人もいるのでは?」と、班の中でも質問を投げかけ合う姿が見られました。



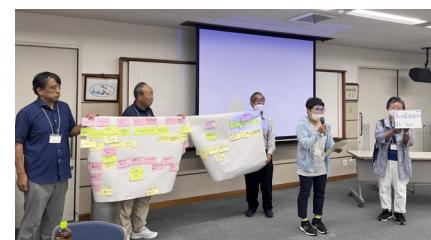
最後に、藤本さんより講評をいただきました。6班が挙げた「本」にふれられ、地域の人が好きな本を持ち寄って運営する私設図書館や、店主が日替わりの本屋の事例をご紹介いただきました。また、3班の「既存のイベントに乗っかる」ことでも、最初何かを始めるためにはいい視点だと指摘されました。

現在の場所や仕組みありきで考えるのではなく、自分たちがやりたいことを具体的にイメージしていくことで、新鮮な視点から拠点に必要なものを考えられるワークショップとなりました。今回の内容は、次回以降も立ち返るべきポイントとなっていくでしょう。

各班の発表内容

だれが? いつ? なにを?

1班	学生が 長期休暇に 交流しながら学ぶ みんなで いつでも たのしくつくる・たべる
2班	宇治市に住む外国人が 行事ごとのイベントで 日本の文化を学び、自國の文化を共有する 市民・高校生・大学生・アーティストが 3年に1度、秋に 宇治トリエンナーレをする
3班	子育てに関わる人たちが 既存のイベントで 自分の得意を披露する 土地を持て余していて有効活用したい人が 毎日 子どもと高齢者がいられる居場所をつくる
4班	留守番することも、大学生や高齢者が 放課後や休日に 勉強したり、ボードゲームや昔の遊びで交流する 子育て中のパパ・ママが 休日のお昼過ぎ～夕方に 大人の得意で子どもと一緒に遊ぶ
5班	30～40代の現役サラリーマンが 仕事が休みの日に 講座をうけられる 65歳以上のシルバー世代が 季節に合わせて10時から16時に サークル活動ができる
6班	本好きな方が 日曜・祝日でも 読書だけでなく、自習・おしゃべりできたり 子育てママ・パパが気を抜ける 自治会やサークルの人が 毎日・夜間でも 会議をしたり、歌や演奏の練習をしたり、軽い運動をしたりできる



今後のワークショップ予定

10.21 13:30～16:30

#2 「場所」について考える

会場：ゆめりあうじ

11.18 13:30～16:30

#3 「しくみ」について考える

会場：ゆめりあうじ

市民協働でつくるまちづくりの拠点

ワークショップ | 中宇治地域

主催：宇治市市民協働推進課

発行日 2023.10.03

